

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第3週 2026年1月12日 ~ 1月18日

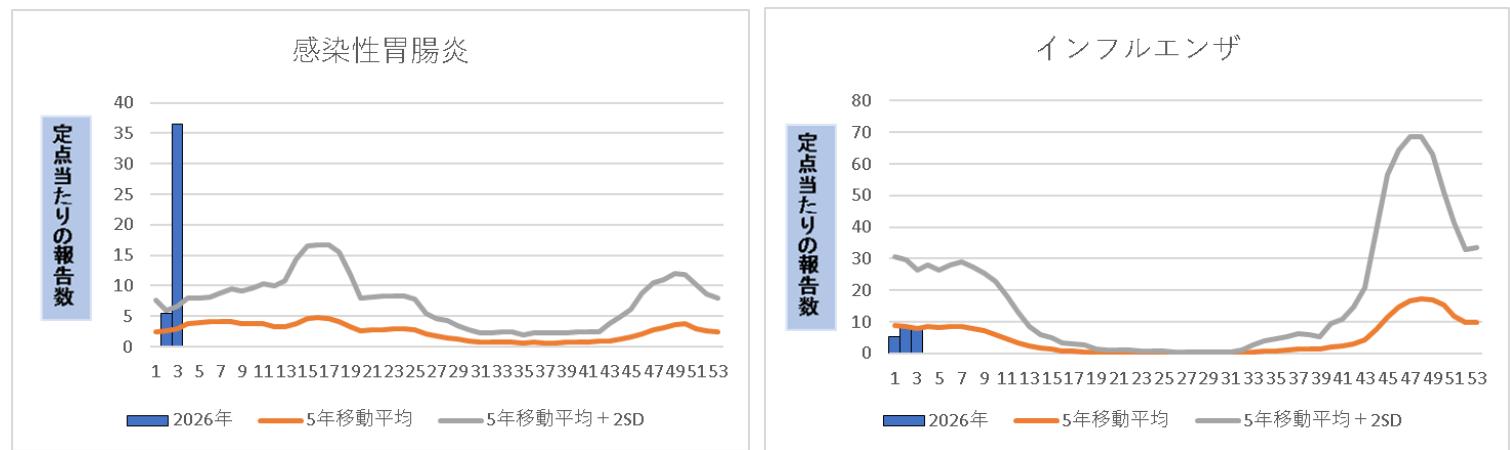
今週のコメント

南丹保健所管内では、**感染性胃腸炎**が警報レベルになりました。
また、**水痘**が警報レベル継続中です。

2026年第3週の報告です。

- 感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 36.5(前週 5.50)、京都府 7.40(前週 5.03)となっています。
- インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 8.50(前週 8.50)、京都府 11.46(前週 10.86)となっています。
- 水痘の定点あたり報告数は、南丹 5.50(前週 2.00)、京都府 0.58(前週 0.90)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。

2 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとしている基準です。

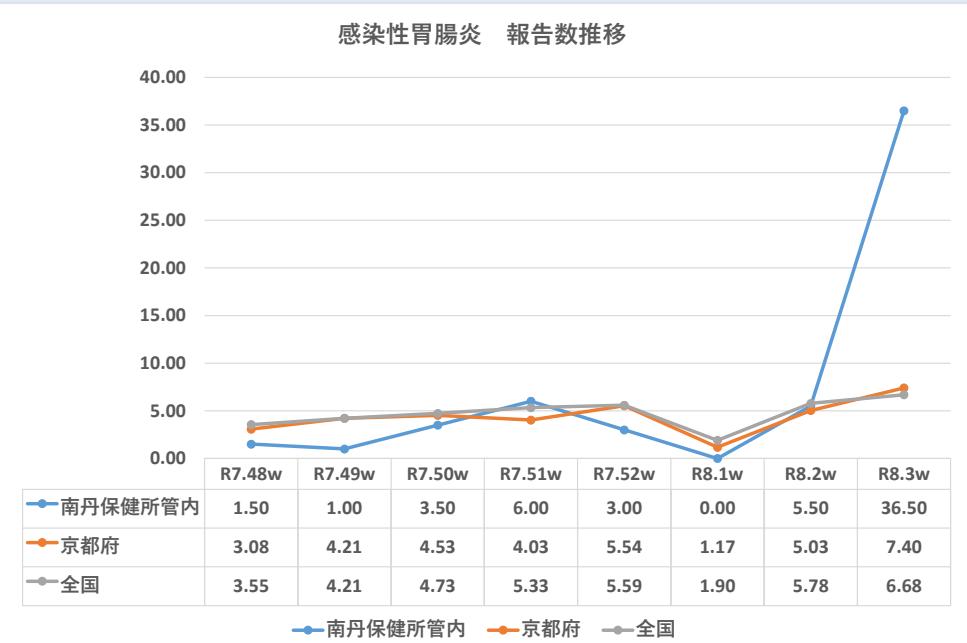
感染性胃腸炎の定点あたり報告数が36.50となり、報告数が急増しました！

感染症胃腸炎の流行に注意しましょう。

南丹保健所管内、京都府、全国ともに増加傾向にありますが、南丹保健所管内ではR8年第2週と比較して急増している状況です。家庭内だけでなく、保育園等の集団生活の場においても感染拡大をする恐れがあります。以下の予防のポイントをしっかりと押さえ、感染拡大の防止に努めましょう。

【予防のポイント】

- 手洗いの徹底(食事前、トイレ後、調理前、帰宅後等)
- 食品の十分な加熱(中心温度85~90°C以上90秒以上)
- 吐物や便の処理は、次亜塩素酸ナトリウムを使用する



感染性胃腸炎とは…

ウイルスや細菌が原因で嘔吐や下痢、腹痛などを引き起こす病気です。今の時期は、ノロウイルスなどによるウイルス性胃腸炎が多く見られます。

各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

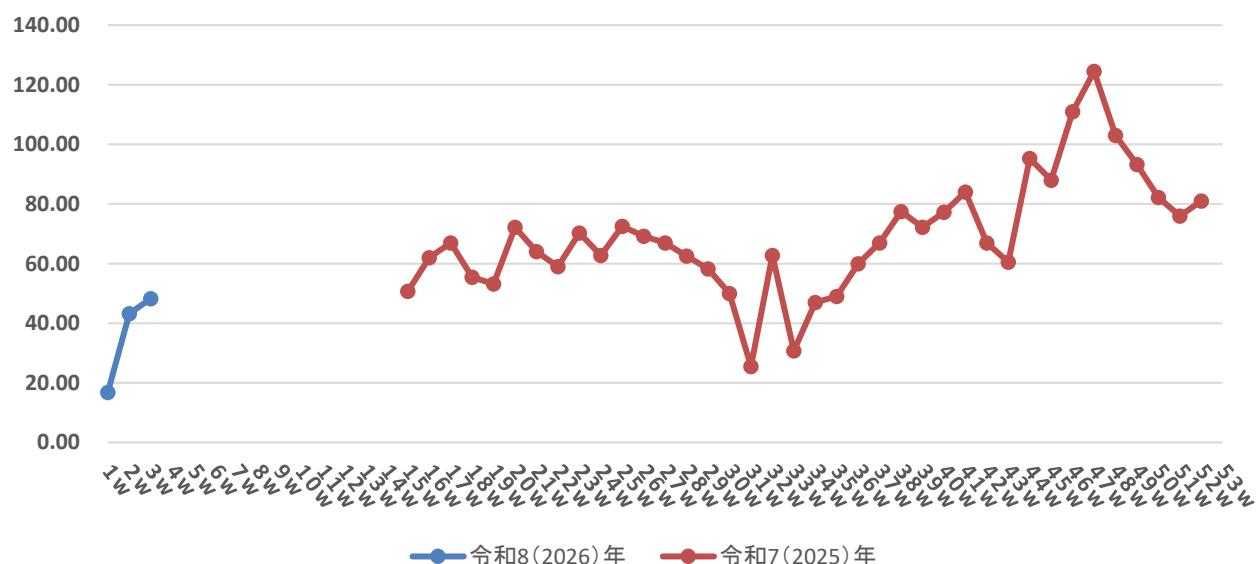
	警報レベル		注意報	R8.3w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	8.50	→	8.50
新型コロナウイルス感染症				1.50	↗	1.00
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.50	↘	2.00
感染性胃腸炎	20	12		36.50	↗	5.50
水痘	2	1	1	5.50	↗	2.00
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.50	↘	1.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	↘	0.50
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第3週報告数は193件(定点当たりの報告数48.25)でした。[京都府の情報はこちら](#)

急性呼吸器感染症(ARI)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則)毎週木曜日 14時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)